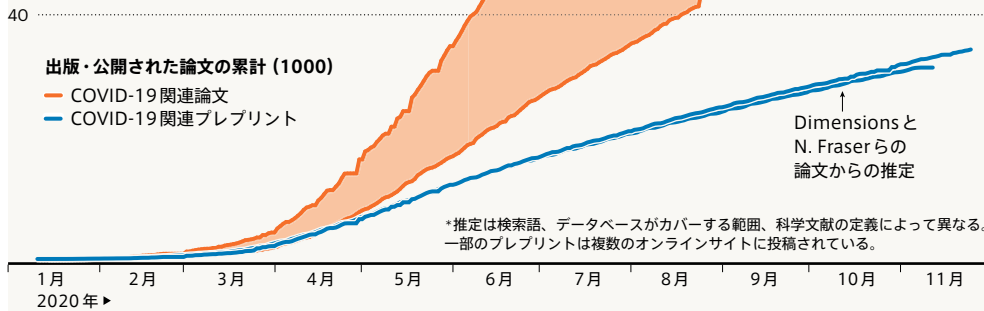


論文数に見る コロナウイルス 研究の奔流

2020年は、にわかに現れた新型コロナウイルス関連の研究論文がウェブサイトやジャーナルを席巻する異例の事態となった。

COVID in papers: a torrent of science

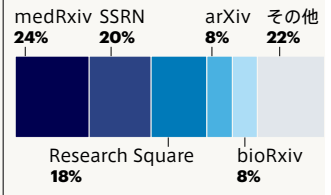
Vol. 588 (553) | 2020.12.24/31
Holly Else
翻訳：三枝小夜子



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) と、その原因である重症急性呼吸器症候群コロナウイルス 2 (SARS-CoV-2) について研究する科学者たちは、しばしばプレプリント (査読前にオンライン投稿された論文) を通じて、その成果を迅速に共有していた。このトピックについては10万本を大きく上回る論文が発表されており、12月中旬に20万本を突破していた可能性がある。2020年には科学ジャーナルに投稿されるあらゆるテーマの論文が急増した。例えば、エルゼビア社が出版する学術誌への2月から5月までの投稿は、2019年と比較して約27万件 (58%) も増加していた。Dimensionsのデータベースによると、世界中で出版された研究論文の約4%が新型コロナウイルスに関するものであったという。

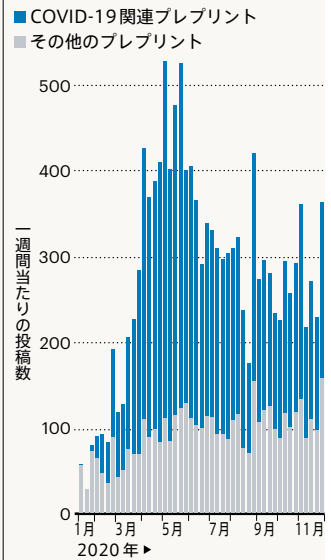
プレプリントの投稿ラッシュ

COVID-19関連文献のうち3万本以上がプレプリントであった。Dimensionsによると、2020年に投稿されたプレプリントの10分の1がCOVID-19に関するものであった。プレプリントの半数以上がmedRxiv、SSRN、またはResearch Squareで公開されている。



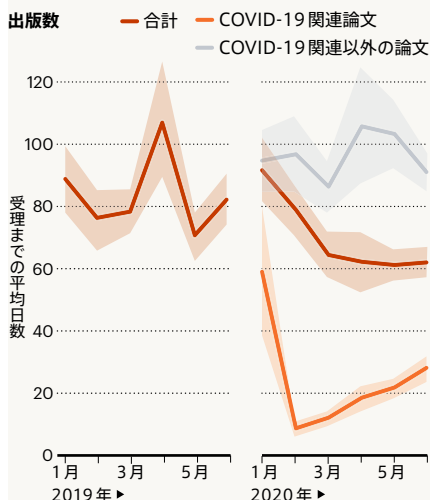
2019年6月に立ち上げられたばかりのmedRxivに投稿されたプレプリントの3分の2以上が、COVID-19に関するものだった。

medRxivへの投稿



迅速な査読

学術誌はCOVID-19関連論文の査読を迅速に行った。2020年前半の医学系11誌の調査から、コロナウイルス関連論文が通常より大幅に早く出版されていたことが明らかになった。その裏には、他の研究論文の出版時期が遅くなるという犠牲があった。



不平等な負担

2020年2~5月にエルゼビア社の学術誌に投稿された数十万本の論文を分析したところ、全ての分野で、女性からの投稿数の増加率が男性に比べて少ないことが分かった。プレプリント分析の共著者でミラノ大学 (イタリア) の社会学者 Flaminio Squazzoniは、これはおそらく、ロックダウン中の育児や家庭教育を女性が担っていたためであり、「今後数年間、昇進や雇用に関する審査では、こうした事情がきちんと考慮されるようにする必要があります」と言う。

